

発刊のことば

4市町が合併し、うるま市になってから4年目になりました。うるま市には中央図書館、石川図書館、勝連図書館の3館があります。合併後導入された3館統一の図書館システムも軌道に乗り、市民はこの3館の任意の窓口で、どこでも同じ充実したサービスを受けることができます。

この3館をより有効的な利用ができるようにするため、中央図書館は調査・研究に対応できる図書館、石川図書館は市民に親しみやすい郷土関係の資料の充実した図書館、勝連図書館は児童用の資料の充実した図書館として、それぞれの整備目標を持って図書館サービスの向上を図っています。

しかし、うるま市の財政状況は悪く支出を削減しなければならない状況にあり、今年度（平成20年度）の図書館予算は合併当初より20%も減という厳しい状況です。

厳しい予算で、どうしても一部の雑誌・新聞の購入を削減しなければならなかったのは残念ではありますが、どの雑誌、どの新聞を購入し市民の要望に適切に対応していくかを職員一同で協議・検討し努力しています。

また、未所蔵の図書をリクエストとして受付け、購入できるものは購入し市民の要望に応えるようにしています。他の図書館との相互貸借制度に加わっており、本市に所蔵していない本であっても他の図書館から借入して市民のニーズに応える体制をとっています。

図書館行事として定例のおはなし会のほかに、生涯学習の一環として役立つ講座や絵本・紙芝居の読み聞かせ方法を学ぶための講座、人形劇などの事業も行っています。

うるま市立図書館の3館には幼児から熟年まで多くの市民が訪れて、学習・調査・研究のため利用しています。月平均で延べ約20,000人が図書館を利用しており市民がもっとも良く利用している施設です。

これからも市民のニーズに応える体制づくりをし、より充実した図書館サービスを実施していきますので、よろしくお願いいたします。

館長 伊波正和